

# 第1回 筑紫哲也賞

## “スローライフの眼” 作文コンクール

ジャーナリスト  
筑紫哲也を  
しのぶ  
おもう  
継ぐ――

- NPOスローライフ・ジャパン
- スローライフ学会
- 2009鳥取・因幡の祭典実行委員会

### 神話・伝説・昔話から学ぼう！

神話とか伝説・昔話が、だんだん遠くなっていく。忘れられていく。危機感がつのる。

山と里、まちとむら。それぞれの地域で培われてきた歴史、民俗、風景、また文化が消えていく現実へのおそれといえようか。

2008年8月、鳥取・因幡でスローライフ学会を開いた。そのテーマは「環境を考える」。総会と分科会四つ。キーワードとして「白兔スローライフ」を掲げた。

鳥取・因幡に伝わる白ウサギの神話――古事記に登場、ウサギが、向こう岸まで労せずしに辿り着こうとして一計を案じ、ワニを偽る物語から始まる。

目的のためには手段を選ばない

ファストな意識への戒めだ。さらにウサギが傷めた肌を癒す話は、日本最古の医療を記している。

そもそも、ウサギは、農業の、また多産のシンボルということで大切に考えられてきた。また大国主命と八上姫との恋物語……。まさにスローライフどころあふれるといっている。

鳥取・因幡での学会フォーラムのねらいは、この伝説の舞台である鳥取の「環境」について、社会も生活も文化をも含めて語りつくす――そこにあった。

このねらいには、フォーラムのコーディネーターに決まっていた筑紫哲也（学会会長）ももちろん大変に乗り気だった。会員の間では、この機に「神話・伝説・昔話をスローライフ視点で読む」作文コンクールを公募したい、という話も出ていた。

だが、“神”は冷酷だった。そもそも好転していたはずの筑紫哲也の病が、フォーラムの直前になって再び急激に悪化し、鳥取行きを断念せざるを得なくなったのである。

学会から二カ月後、筑紫逝く。スローライフ活動の上で彼の遺志

を継ぐには――。筑紫哲也賞を設けた。その第一回は鳥取・因幡で話題となった「神話・伝説を新しい眼で読む作文コンクール」に。

NPOスローライフ・ジャパンとスローライフ学会が昨年末に開いた「スローライフのひと・筑紫哲也を継ぐ会」が起点となって、この賞がスタートしたという経緯である。

全国のスローライフびとからの熱情たぎる作文を集め、「本」にまとめて天空の筑紫哲也へ届けたいと願っている。

